

(表3)

出席番号 氏名	小問番号					
	1		2		3	
	後	把持	後	把持	後	把持
1	○	○	○	○	×	○
2	×	×	×	×	×	×
3	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	×	○	×
5	○	○	○	×	○	×
6	○	○	○	○	○	○
7	○	×	○	×	○	○
8	×	○	○	○	○	○
9	○	○	○	○	○	○
10	○	○	○	○	×	×
11	×	×	○	○	○	×
12	×	○	×	○	○	○
13	○	○	○	○	○	○
14	○	○	×	×	×	×
15	○	○	○	○	○	○
16	○	○	○	○	○	×
17	○	○	○	×	○	○
18	矢	○	矢	○	矢	×
19	○	×	○	○	○	○
20	○	○	○	○	○	○
21	○	○	○	○	○	○
22	○	×	○	×	×	×
23	○	○	×	○	×	○
24	○	○	○	×	○	○
25	○	×	○	○	○	○
26	○	○	○	○	○	○
27	○	○	○	○	○	○
28	○	○	○	○	○	×
29	○	○	×	○	×	×
30	○	○	○	○	○	○
正 答 数 (正 答 率)	25 (86)	23 (79)	24 (83)	21 (72)	22 (76)	19 (66)
○ の 数	25	21	24	18	22	17
把 持 率	84		75		77	
両テストを受験した人数	29					

(表4)

小問番号 問 題 内 容	正 答 率 %		把 持 率	変容のグラフ 0 50 (%) 100
	事後 テスト	把持 テスト		
1	86	79	84	
2	83	72	75	
3	76	66	77	
4				

有効度指数を求めたときと同じように、まず、事後テスト、把持テストの少なくとも一方を欠席したものに横線を引き、計算の対象としません。(表3)では、事後テスト、把持テストの両方とも受験した人数は29人であることがわかります。

小問1について、事後テストの正答者数(○の数)は25、事後テスト、把持テストともに正答者の数(○の数)(これは、事後テストの正答者のうち、把持テストの正答者の数のこと)は21ですから、p205の公式⑧によって、

$$\begin{aligned}
 (\text{把持率}) &= \frac{(\text{○の数})}{(\text{○の数})} \times 100 \\
 &= \frac{21}{25} \times 100 \\
 &= 84
 \end{aligned}$$

と求めることができます。同様にして、小問2、3の把持率は、それぞれ、75、77となります。

(表4)は、(表3)の諸結果を見やすく